

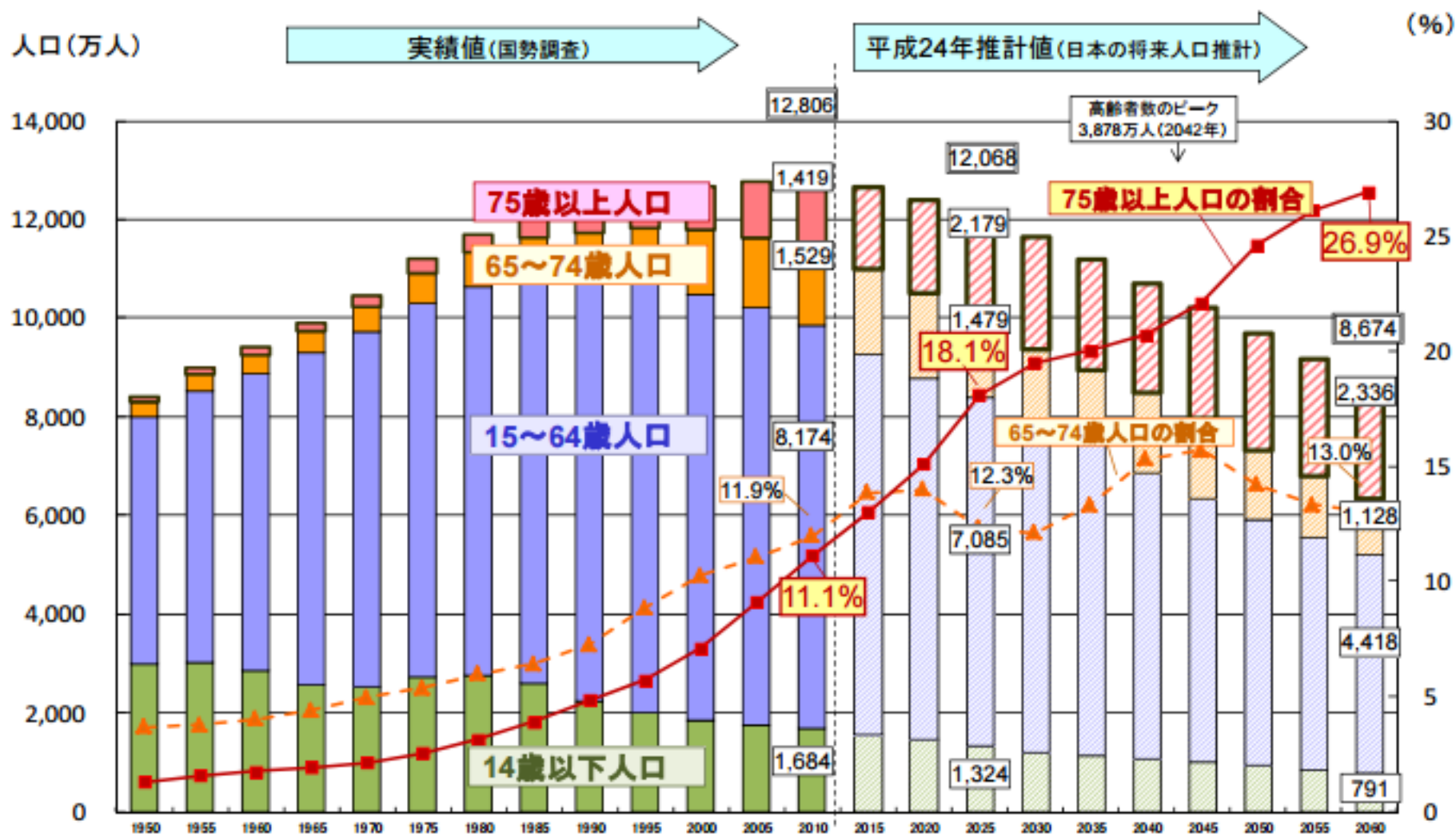
柏市在宅リハビリテーション連絡会 交流会

# 平成27年 介護保険改正のねらい

日時:平成28年9月28日(水)  
会場:柏市地域医療連携センター

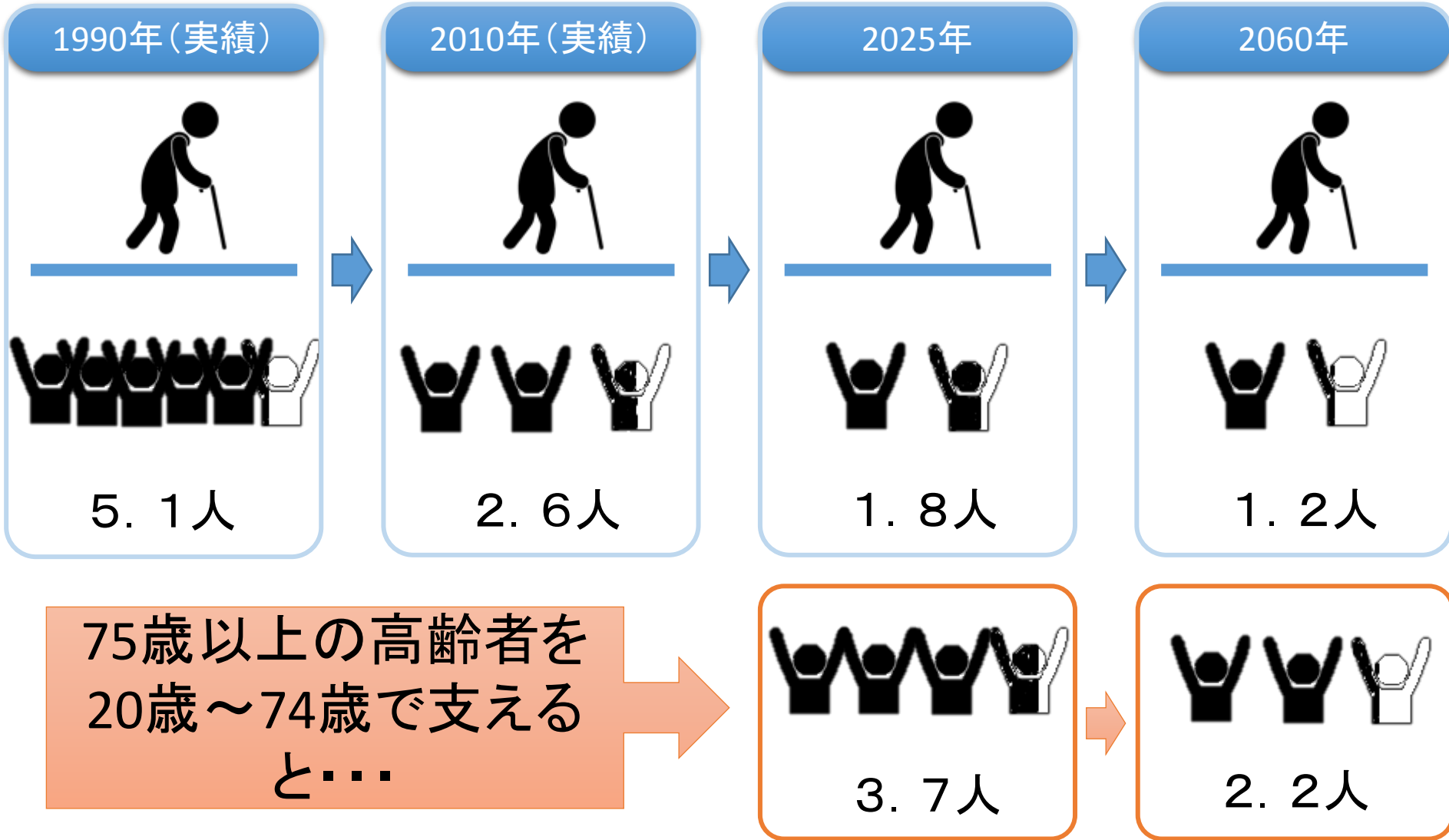
柏市在宅リハビリテーション連絡会  
理事 渡辺 良明

## (参考)75歳以上の高齢者数の急速な増加



(資料)総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)出生中位(死亡中位)推計  
2010年の値は総務省統計局「平成22年国勢調査による基準人口」(国籍・年齢「不詳人口」を按分補正した人口)による。

# 社会保障・高齢者一人を支える人数(20歳～64歳)



(出所)  
・総務省「国税調査」及び「人口推計」  
・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」  
・厚生労働省「人口動態統計」

# 地域包括ケアシステムの姿

(厚生労働省HPより引用)

○ 2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されること

○ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるひつようがある。

○ 保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。

# 新たな高齢者介護システムの構築を目指して

平成6年12月 高齢者介護・自立支援システム研究会

## (高齢者の自立支援)

今後の高齢者介護の基本理念は、高齢者が自らの意思に基づき、自立した質の高い生活を送ることができるように支援すること、つまり『高齢者の自立支援』である。

従来の高齢者介護は、どちらかと言えば、高齢者の身体を清潔に保ち、食事や入浴等の面倒をみるといった「お世話」の面にとどまりがちであった。

今後は、重度の障害を有する高齢者であっても、例えば、車椅子で外出し、好きな買い物ができ、友人に会い、地域社会の一員として様々な活動に参加するなど、自分の生活を楽しむことができるような、自立した生活実現を積極的に支援することが、介護の基本理念として置かれるべきである。

# 新たな高齢者介護システムの構築を目指して

平成6年12月 高齢者介護・自立支援システム研究会

## (地域リハビリテーションの推進)

心身の機能が低下したことによって万一介護を必要とするような状態になった場合には、できる限り早い段階から適切なリハビリテーションを提供する必要がある。

また、高齢者の社会参加を支えるためには、リハビリテーションの概念を大きく広げていくことが重要である。従来の施設や病院等における医学的、機能回復的なリハビリテーションだけでなく、高齢者本人の意思によって地域社会の様々な活動に積極的に参加できるように、日常生活の中にリハビリテーションの要素を取り入れ、地域全体で高齢者を支える取組みを推進していくことが求められる。

# 介護保険法 (平成9年12月17日制定、平成12年4月1日から施行)

(目的)

## 第一条

この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

# 平成 16年1月 高齢者リハビリテーション研究会 報告書

- 個人の状態や希望等に基づく適切な目標の設定とその達成に向けた個別性を重視した適時適切なリハビリテーションが、必ずしも計画的に実施できていないのではないか（依然として、訓練そのものが目的化しているのではないか）。
- 「身体機能」に偏ったリハビリテーションが実施され、「活動」や「参加」などの生活機能全般を向上させるためのバランスのとれたリハビリテーションが依然として徹底できていないのではないか。
- 廃用症候群への早期対応が不十分ではないか。
- 居宅サービスの一体的・総合的な提供や評価を進めるべきではないか。
- 高齢者の気概や意欲を引き出す取組が不十分ではないか。
- 通所と訪問の連携や他のサービス事業所間・専門職間の連携を高める必要があるのではないか。
- 利用者や家族を始め、国民一人ひとりがリハビリテーションの意義について更に理解を深める必要があるのではないか。



# 「高齢者の地域における新たなリハビリテーションの 在り方検討会の報告書

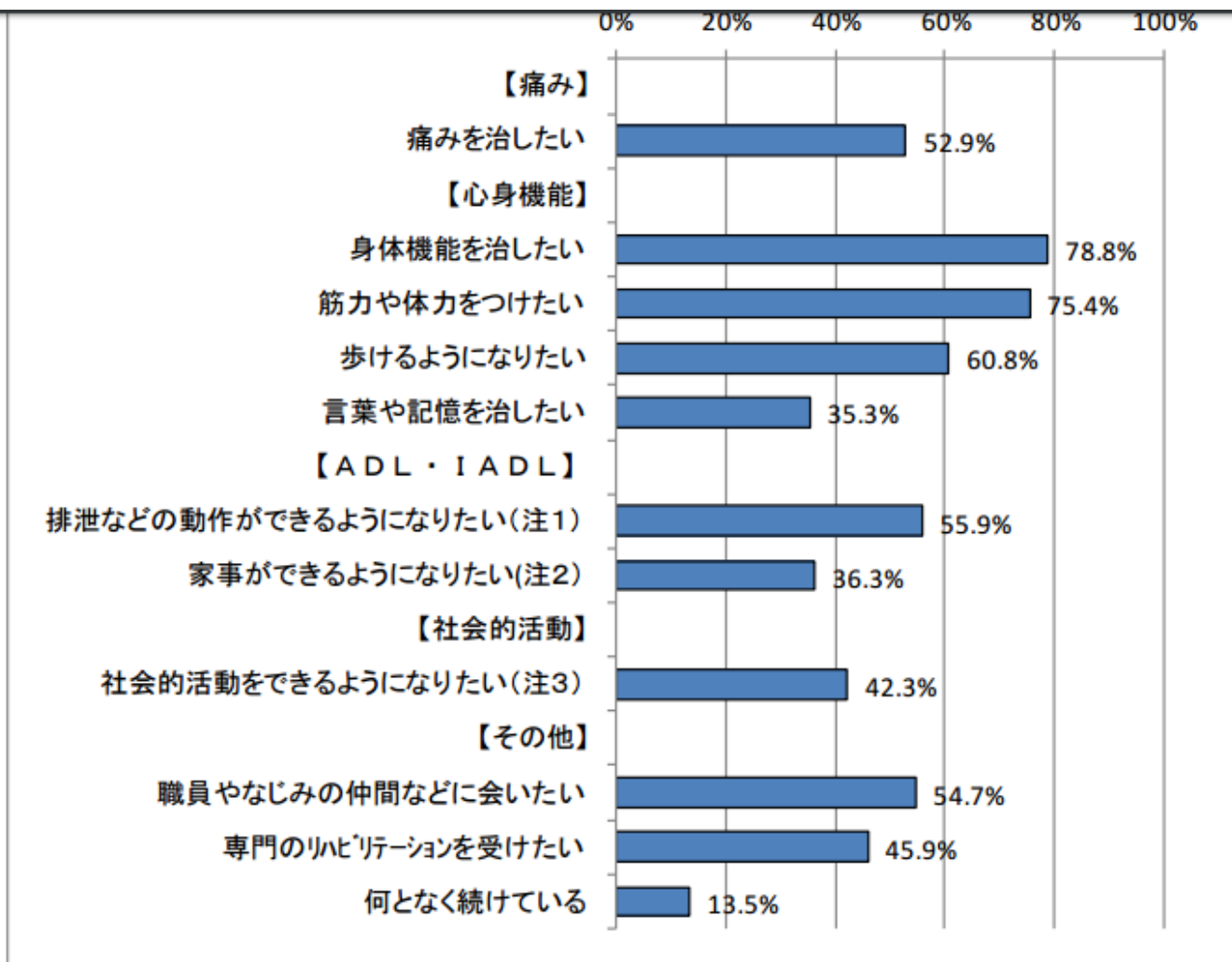
(平成27年3月)

- (1) 訓練そのものが目的化し、**機能訓練が漫然と実施されており**、目標と期間を定めた計画に基づく適時・適切なリハビリテーションが提供されていない。
- (2) **「活動」や「参加」などの生活機能全般を向上させるためのバランスのとれたリハビリテーションが実施されていない。**  
さらに、以前の不自由のない生活機能と現在の低下した生活機能との差を受け止め、自分の持つ能力の限界と可能性を理解(受容)するための働きかけが不十分である。

- (3) 居宅サービスの効果的・効率的な連携 在宅の高齢者が、長く住み慣れた自宅で生活できるよう、訪問リハビリや通所リハビリなどの居宅サービスが一体的・総合的に提供できていない。また、医療と介護の連携や介護保険の中での各サービス間や、専門職種間の連携が不十分である。
- (4) 高齢者自身の思いが把握できていない。また、以前の生活機能と現在の低下した生活機能との差を受け止め、自身の持つ能力の限界と可能性を高齢者が理解(受容)するための働きかけが不十分である。さらに、国民一人ひとりがリハビリテーションについて理解を深めることが重要であるが、地域の医療・介護専門職がそのための役割を十分に果たしているとは言えない。

# 通所リハビリテーションの継続理由

本人回答（複数回答）(n=2,786)



注1の全文……

「日常生活を送る上での基本的な動作(移動や食事、排泄、入浴、着替えなど)ができるようになりたい」

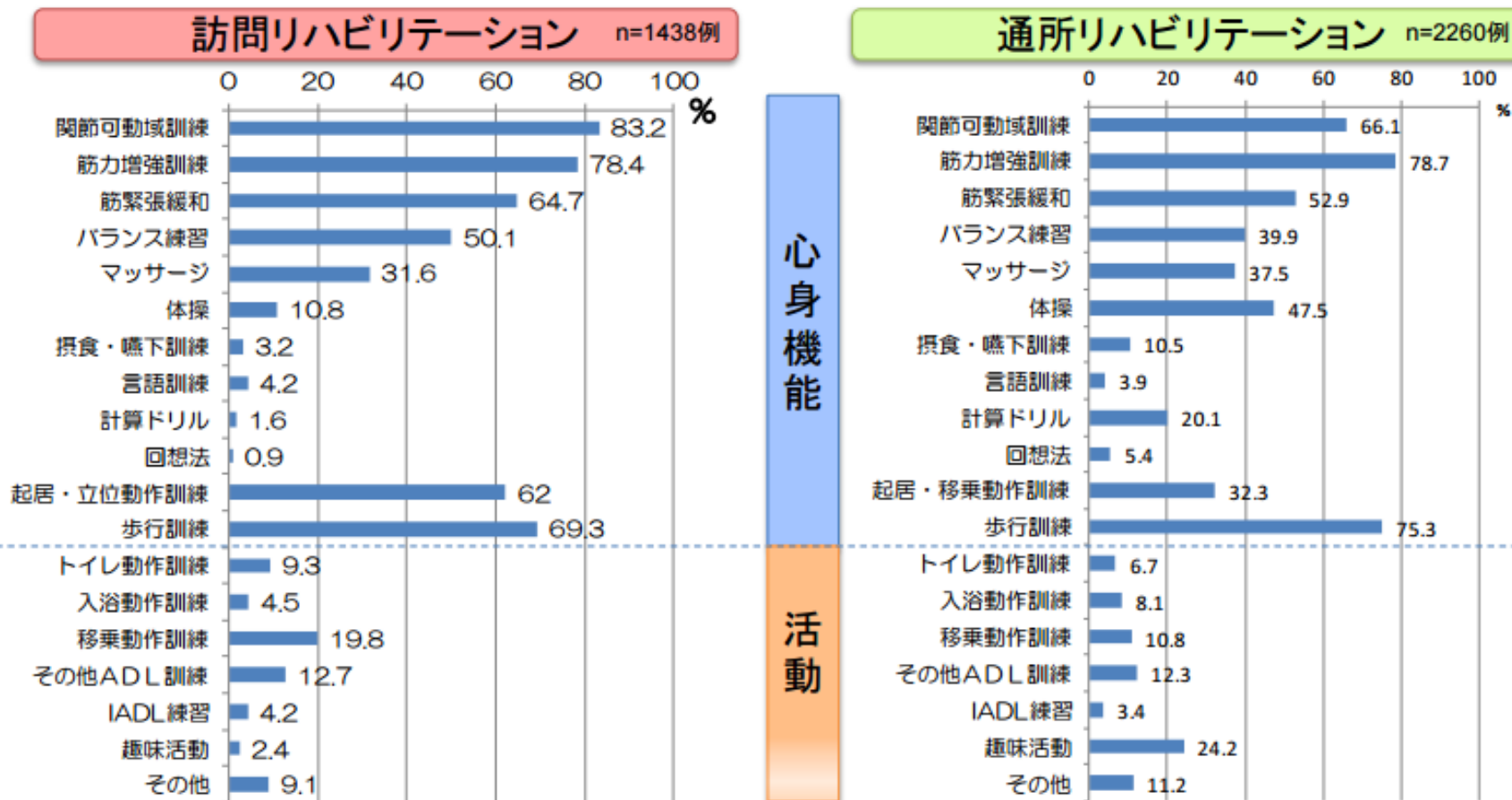
注2の全文……

「買い物や掃除、料理など家事ができるようになりたい」

注3の全文……

「病気やけがになる前に行っていた趣味活動や仕事をするなどの社会的活動ができるようになりたい」

# 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションで提供されているプログラム内容



出典：平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成 25 年度調査）「生活期リハビリテーションに関する実態調査」報告書

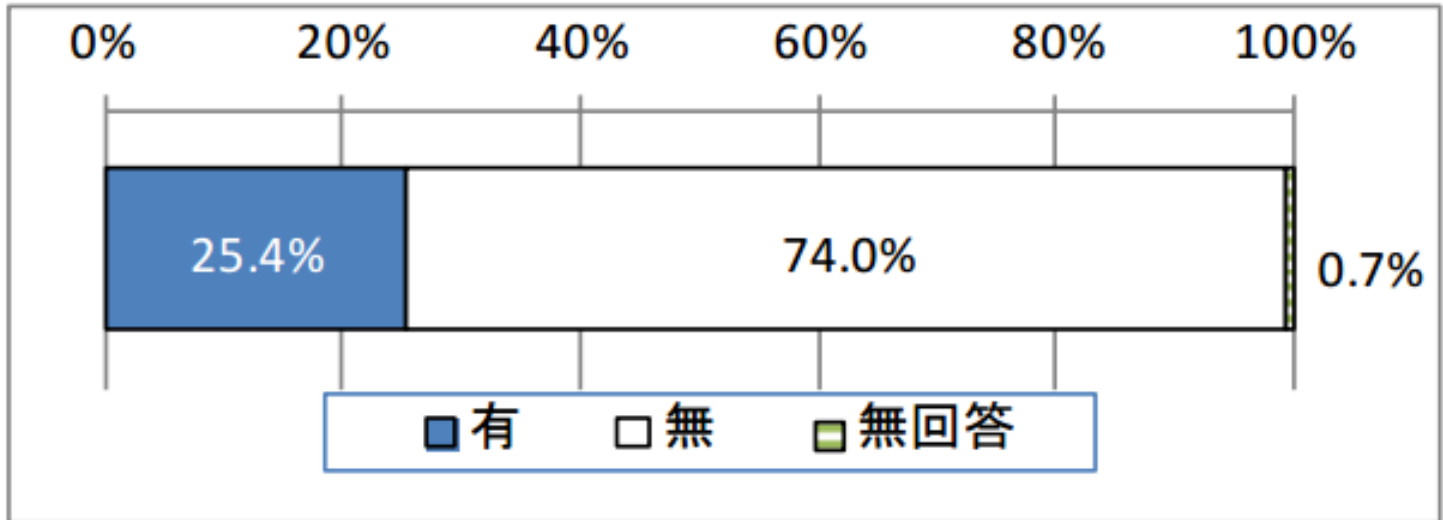
リハビリテーション専門職回答:

# 通所リハビリテーション

## 終了後の利用者の生活イメージ

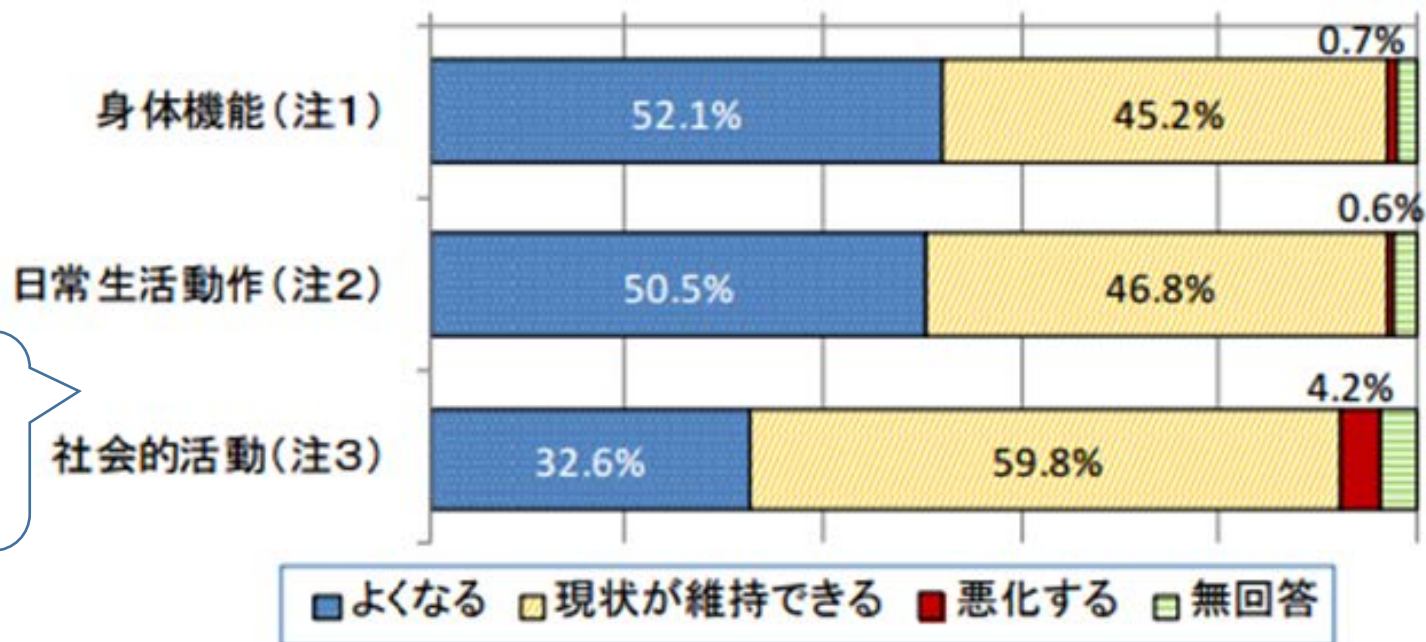
(n=3,415)

(例:スポーツジムに通う)の有無

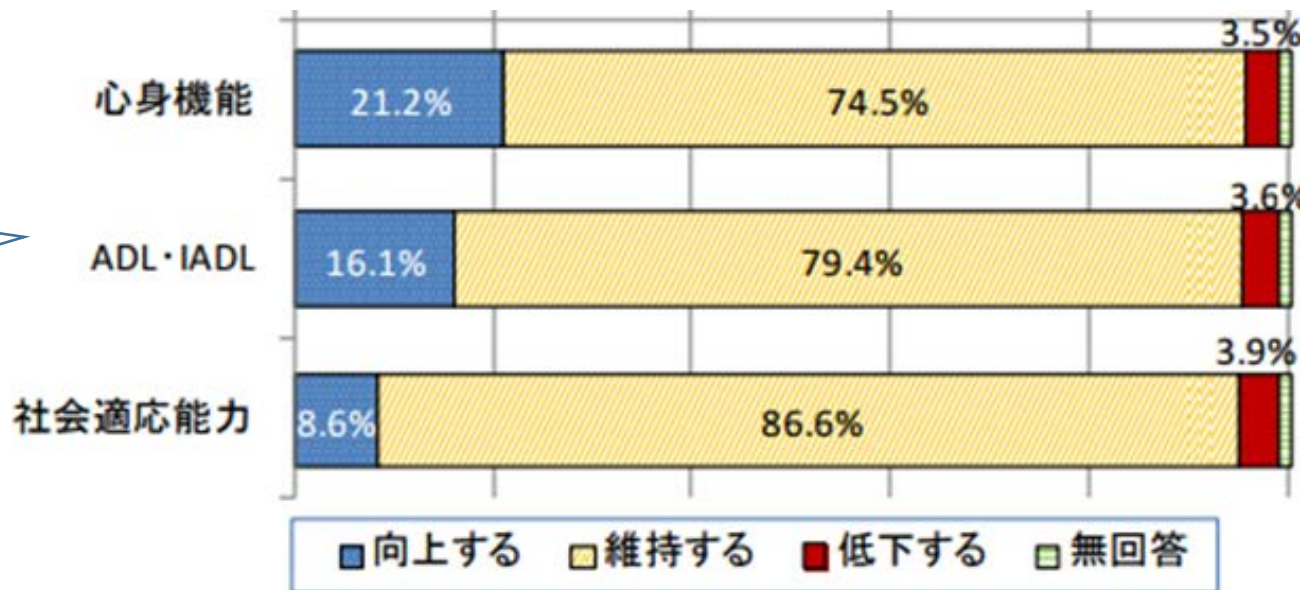


出典：平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成 26 年度調査）「リハビリテーションにおける医療と介護の連携に係る調査研究事業」報告書

本人の認識  
N=2,786



リハ専門職の  
認識  
N=3,415

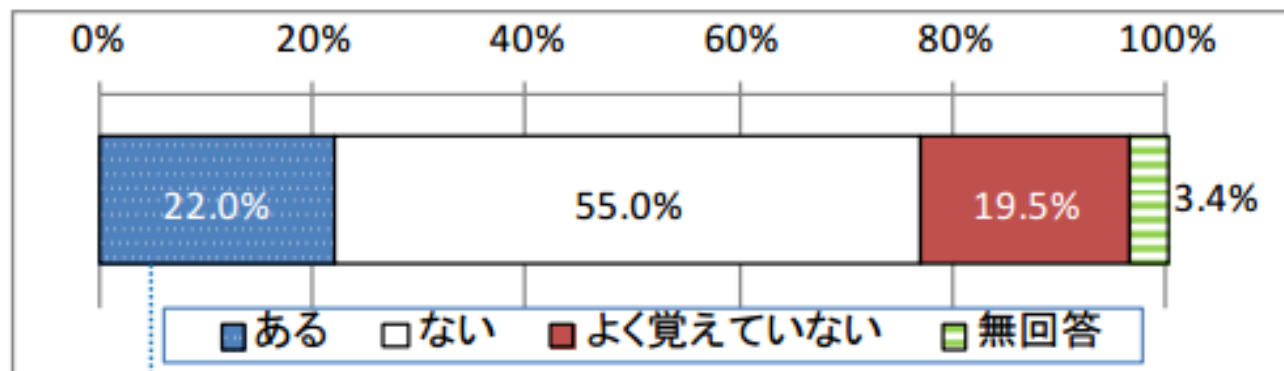


## リハビリの効果に対する認識

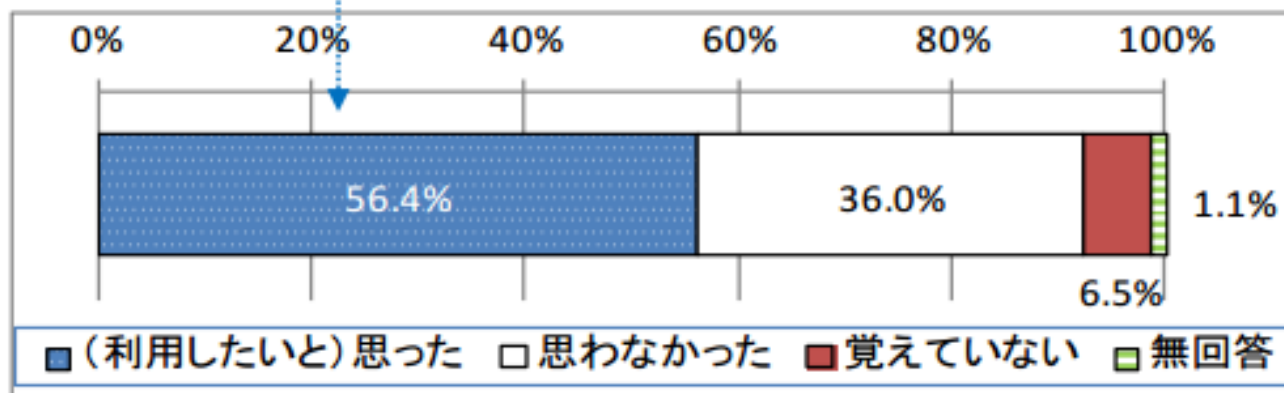
出典：平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成 26 年度調査）「リハビリテーションにおける医療と介護の連携に係る調査研究事業」報告書



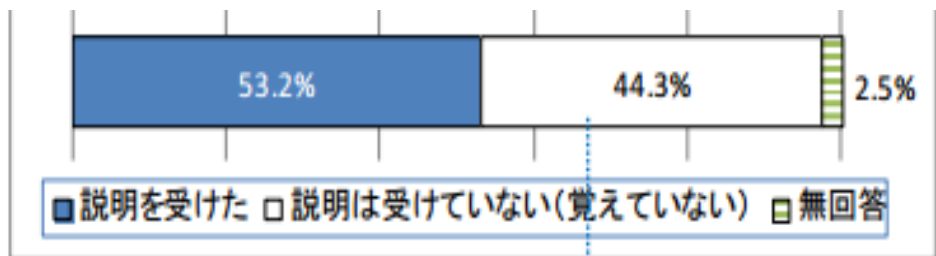
図表Ⅲ-⑬ 本人回答:通所リハの職員等からの地域の体操教室等についての説明を受けたことがあるか(n=2,786)



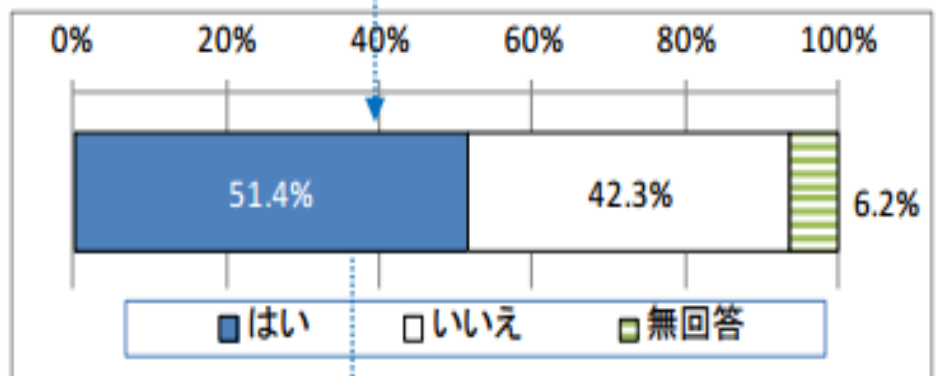
図表Ⅲ-⑭ 本人回答:地域の体操教室等についての説明が「ある」場合にそのサービスを利用したいと思ったか(n=614)



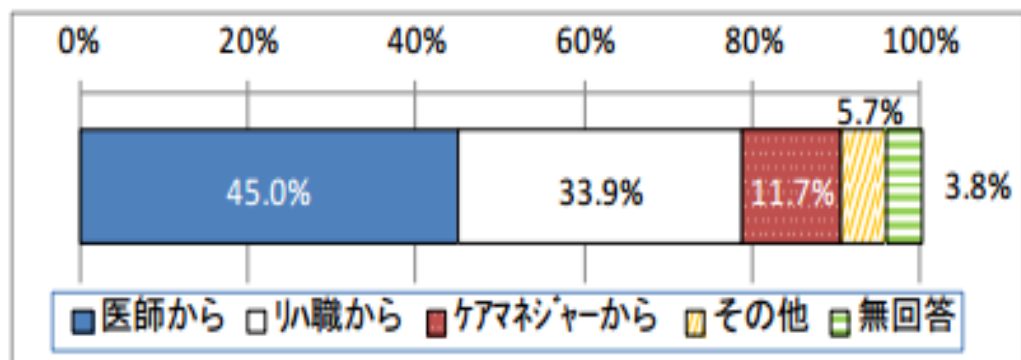
身体機能や日常生活を送る上での動作の  
今後の見通しの説明の有無  
(n=2,786)



図表Ⅲ-⑨ (説明なしの場合) 説明を受けたかったか (n=1,233)



図表Ⅲ-⑩(希望有の場合)希望説明者 (n=634)

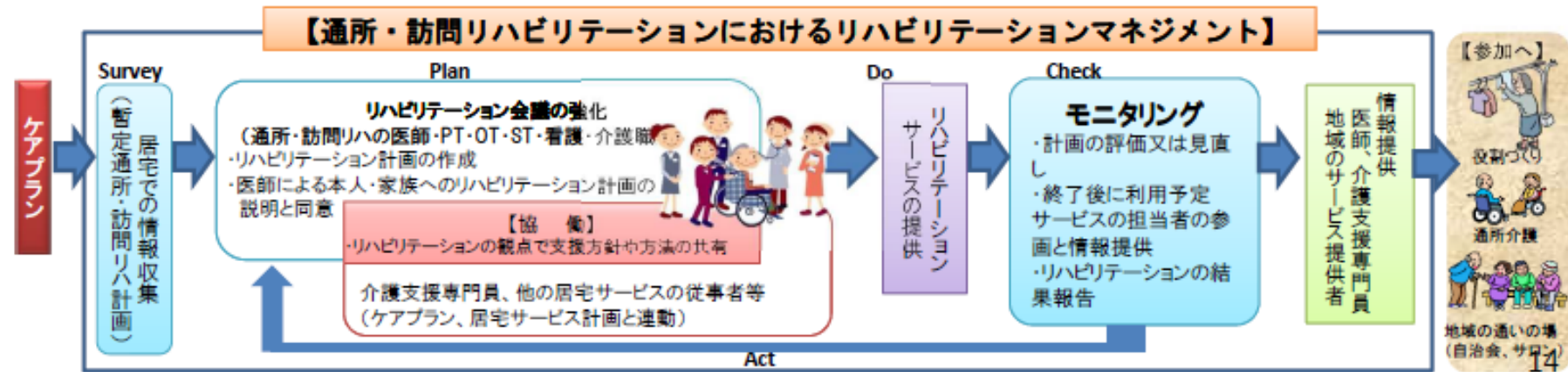
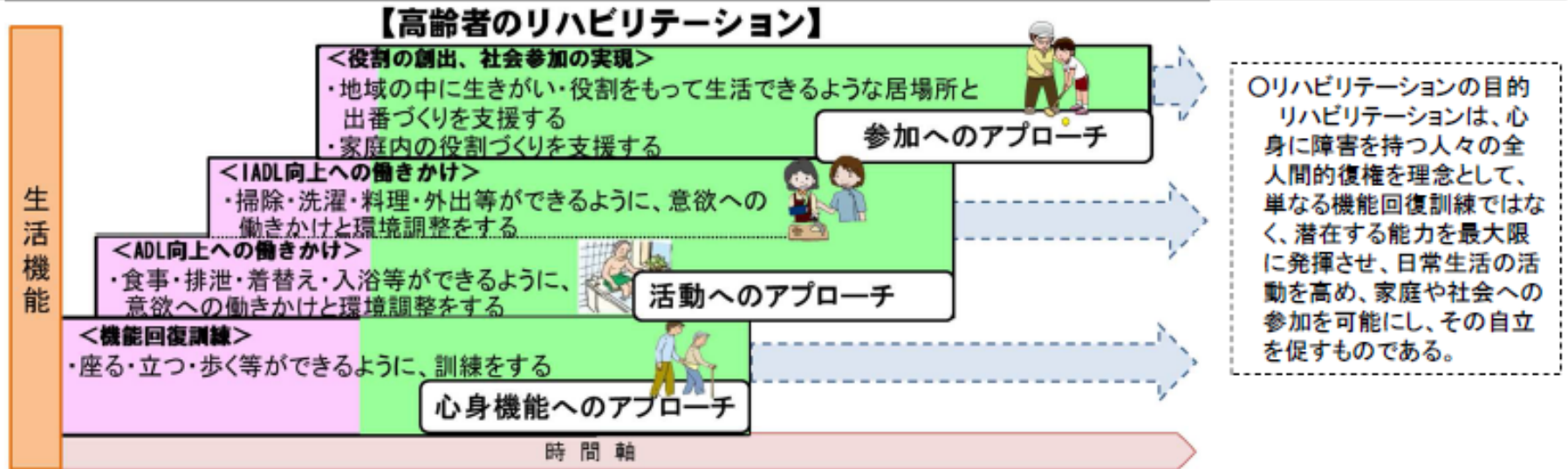


出典 平成24年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(平成26年度調査)「リハビリテーションにおける医療と介護の連携に係る調査研究事業」報告書



## (2) 活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの推進

○「心身機能」、「活動」、「参加」の要素にバランスよく働きかける効果的なリハビリテーションの提供を推進するため、そのような理念を明確化するとともに、「活動」と「参加」に焦点を当てた新たな報酬体系の導入や、このような質の高いリハビリテーションの着実な提供を促すためのリハビリテーションマネジメントの充実等を図る。



# その人らしさを引き出すリハ&ケア

・従来の評価・分析

+

・強みの評価・分析

・生活目標やプロセスへの応用





# ストレングス（強み）の種類

対象者の強みは下記の表を参考に、ご本人・ご家族等より問診・観察し、生活目標やリハやケアプロセスに活用してください。

人の性質・性格	技能・才能	関心・願望	環境
正直である 思いやりがある 親切である 辛抱強い 感性が豊か 話し好き 世話好き 几帳面である	金銭管理が正確 記憶力が高い 花をいけられる 裁縫が得意 人生経験が豊富 歌が好き 家庭で役割がある 絵がうまい	温泉が好き 魚釣りが好き 孫が好き 人の役に立ちたい 料理を教えたい 将来の夢がある 旅行に行きたい 仕事が楽しい	家族がいる ペットがいる 自宅が住みやすい 親友がいる 信頼できるケアマネ 経済的余裕がある 近くに商店街がある サロン仲間がいる

出典：チャールズ・A・ラップ「ストレングスモデル」一部改変

# ストレングスリハ&ケアの元祖

## ルートヴィヒ・グットマン博士

イギリス ストーク・マンデビル病院 医師

パラリンピック創設者

1948年～67年継続

### 当事者へのメッセージ

**It's ability, not disability, that counts**

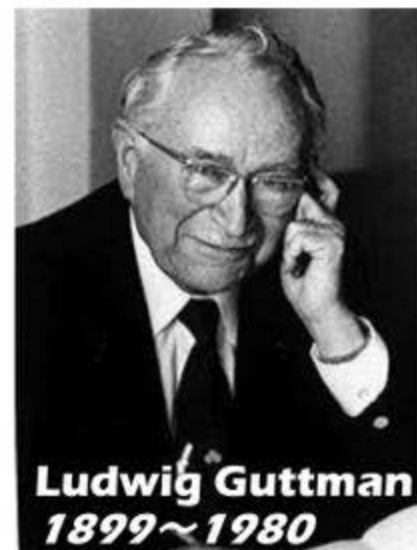
失ったものを数えるな。残っているものを活かせ！

### 支援者へのメッセージ

**Not charity but a chance !**

保護より機会を！

現在のパラリンピックへ受け継がれている！



Ludwig Guttman  
1899~1980

